

いすみなみ

〒298 0111 千葉県いすみ市万木二番地
社会福祉法人横の里 いすみ学園
電話 〇四七〇(八六)三四一二
E-mail アドレス ism3412@titan.ocn.ne.jp

第 100 号



『二十七年度を迎えて』

施設長 秋本 泰司



平成二十七年度は報酬単価の見直しが行われ、介護報酬が二%を超えた大幅な削減となり、障害分野も連動して削減される不安もありましたが、一月に障害分野の改定率はゼロと決まり、ホツとしたものの収支や規模などに応じた見直しが行われ、引き続き経営努力が求められる状況となっています。いすみ学園は、昨年に学園創設三十年の「節目」を迎えて、この二十七年度は、新たな歴史を積み上げる初年度になります。

め職員増を進めてきました。しかし、この人員確保は、覚悟していた通り厳しく、予定の半数以下の道半ばのまま新年度を迎えることになりました。当然、この働きかけは四月以降も継続し、早期に確保するように努めていきますが、人口減少期を迎える中、そして地域性も相まって「人材確保」は最も厳しい取り組みになってきています。厚労省が『小さな拠点』構想を掲げ、職種の統合などを含めて効率化を図ろうとしています。それが期待しつつも直ぐに成果がでるものでもありません。特に、この人員確保の問題は、いすみ学園の職員年齢層から三年先、五年先を考えると、職員育成に長い時間をかけられない事情があります。

学園としては、ここ数年の内に、中・長期的な体制をどこまで整えることが出来るのかが大きな壁です。さらに二十七年度は、新制度に移行して三年目の見直し年に当たり、今、話題となっている社会福祉法人の「地域貢献活動」の義務化も気になります。内部留保の問題もあり、目的としての不透明さもありますが、具体的に何を求めているのか…。今以上に何が出来るのか…。しかし、我々もただそれを待っているだけでなく、そして、これまでの経験に止まっているだけでなく、学園の実情を踏まえつつ、これまで積み重ねてきたノウハウをどのように地域の中で活かせるかを考えなければならぬ時代です。二十七年度に入り、多くの課題に囲まれています。が、新たな歴史作りに向けた一歩を職員一同で踏み出してみたいです。今後とも変わらぬご支援をお願い致します。文末になりますが、この三月、いすみ学園の初代施設長であり、三十年の長きに亘り学園の発展に尽力されてきた原井利夫常務理事が退任されます。措置の時代から幾多の制

度改革を乗り越え、「いすみ」の地に安定した生活の場を作り上げてきたことは、大きな成果であり、これからは守っていかねばなりません。原井常務理事が何よりも大切に実践してきたことの一つに、『学園がここまでこられたのは、全て周りの人たちのお蔭。だから人との繋がりは何よりも大切ななければならない』。があります。この思いをこれからも引き継いでまいります。



いすみ学園の高齢虚弱化問題を考察する

支援課長 堂下 勉

いすみ学園創立30周年記念式典を、昨年6月に無事に終えたが、30年前には、はたしてご家族の皆様も我々支援職員も、今私たちが抱えている新たな課題（高齢虚弱化問題）に直面している現実を予測できたのかと思うと、感慨深い思いが募ります。これからのいすみ学園の在り方を考えた時、この30年の歴史から読み取れるように、先々の事は不透明な部分も実存してしまうという事実も真摯に受け止めた事業展開が必要でしょう。その意味合いにおいても「短中期事業計画」の重要性が求められていくものと理解しています。今、我々が最も優先して解決すべき課題として、高齢虚弱者であっても安心して暮らしていける方向性を明確にしていく事です。自閉症者を中心とした高齢虚弱化問題は、若年層であっても、幼少よりの行動障害が起因する虚弱化傾向の問題は、数年前より、日中活動や余暇支援、また夜間支援の在り方等、我々の論議の中心となってきたと言えます。検討課題として全職員に共有して進めてきたと言えますが、

とは言え高齢虚弱者への支援を考えたとき、先ず優先すべき課題として、ハード・ソフト両面の課題整理が急務でありました。こうした事情を踏まえて、昨年8月27日に第1回「高齢虚弱者検

討委員会」を、保護者会長・理事を始め、学園職員で発足した経緯があります。現在、正式名称として、「高齢者棟建設検討委員会」として検討部会を開催している最中であり、高齢・虚弱化問題に特化した検討部会であり、この案件については、適時に全職員に共有した理解として進めています。

次にご家族の思いを考えてみましょう。今から30数年前は、自閉症者の方々の支援は、現在のように自閉症センター等の事業所が存在した時代ではありませんでした。親御さんたちは、我が子の将来の安住を求め、あらゆる活動をこなし、やっとたどり着いたのが「いすみ学園」であり、不運であっても幸せに暮らしていける「生活の場」を求め、さまざま生活より解放されて安堵されたことと察します。ご家族の思いは、親亡き後でも託せるということが前提となります。昨今障害者を取りまく法制度の度重なる改正等もありますが、親の願いに変わりはありません。

最後に、「高齢者棟建設委員会」の発足は、これからの知的障害者支援施設における、共通した課題でもあるかと思えます。いすみ学園では、理想の在り方を追求し、実現に向けたスタートを切った段階と言えます。

僕らはみんな生き生き展

平成27年2月22日（日）から25日（水）の4日間にかけて「僕らはみんな生き生き展」が茂原のアスモショップセンターにて開催されました。長生・いすみ地区の福祉施設及び特別支援学校が集まり「ハンデキヤップを持つている人たちへの理解を深めてもらうこと」を目的とし、今回で第23回になり、いすみ学園が生き生き展の幹事施設となり、皆さんの御協力を得て、開催する事ができました。

学園の利用者、職員にとっても楽しいイベントで、この日の為に一生懸命に作品作りに励んできました。今年



も各班の定番商品の他に、新商品「ゆず大根・型抜きクッキー・味噌の試食販売・絹さやの苗・パッケンポーチ・万木織りロール」などを販売しました。

「生き生き展」開催中は利用者の見学も実施し、いすみ学園や他の施設の商品も見れて楽しそうでした。また、お客様の中には、毎年開催される生き生き展を楽しみにしているファンの方も多く、いすみ学園の商品を楽しみにしている常連のお客様もいました。お客様の中で木更津から来たと言っていたお客様がいすみ学園さん（石鹸班）の固形石鹸は「汚れがよく落ちる」からと買いに来られ、液体石鹸があるのは知らなかったようで、びっくりした様子でしたが「嬉しい」と言って購入していききました。

3班のブルーベリーの苗は、わかりやすい育て方の説明書もあり、購入するお客様が「説明書があるのでありがたい」と喜んでいました。

今回、お客様と接する事で、感動や発見もあり、いろんな御意見も聞け、今後の商品を作っていく中で参考にし、すばらしい商品を作り、沢山の人のいすみ学園の事を知ってもらいたいと思います。

最後になりますが、生き生き展の会場を提供していただいた茂原アスモショップセンターをはじめ、ご協力頂いた皆様、ご来場頂いた皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

（支援員 金城 正直）

『健康よもやま話』

理事長(埼玉医大名誉教授)

土肥 豊

その(49)

今回は、最近何かと話題の多い認知症について考えてみましょう。

認知症というのは、一口で言えば、人間が人間らしい知的活動を営むために必要な脳の働きが衰えるために、目や耳その他から入る外からの色々な情報をキャッチして理解し、分析して判断を下し、それに見合った適切な行動を生み出したり、あるいは経験したことを記憶に留めたりする、人間らしい社会的適応能力が失われ、自分一人で自立した生活を営むことが困難になる程、大脳機能が低下した状態と言うことができます。ただ一口に認知症といっても、その内容は様々で、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症が最も多く、次いで脳血管性(脳卒中の後遺症など)のもので、その他のものは極めて少ないとされています。最も代表的なアルツハイマー型認知症について、その特徴を簡単に述べてみましょう。一般の方がよく持たれる疑問は、いわゆる老人ボケとはどこが違うのかという点です。その最大の違いは、単なる物忘れではなく、「自分が忘れていているという事を忘れる」、言い換えれば病識が全

く欠如しているというのがこの病態の本質的な特徴といえるでしょう。特に目立つのは、昔のことはよく覚えていのに、直近のこと(例えば朝ごはんを食べたことなど)を覚えてないのが特徴です。

またもう一つの特徴は、いわゆる「取り繕い反応」といわれる症状で、自分の間違いを人から指摘されると、笑ってごまかしたり、実際にはやっていないのに、やっていような嘘を平然とつくような状態をいいます。しかも、本当にそのことを自分はやっていないかと思っているのです。例えば、実際にはテレビを見ていないのに「テレビは観ていますか?」と質問すると「観ています」と答えます。「では、今日はどんな番組を観ましたか?」と聞くと「まあ、色々ですね」とか「NHK以外は観ません」というような抽象的答えでごまかします。しかも、本人は嘘をついているという意識は全くないので、質問者はいごまかされてしまいます。ここがいわゆる老人ボケとの大きな違いです。

繰り返しになりますが、①直前にあった事を忘れている②自分が忘れていることを忘れてい(病気の意識は全くない)③適当な言葉でごまかす(いかにも本当らしく取り繕う)の三つが老人ボケとの最大の違いと言われています。ただ、実際には、ある程度症状が進まないと、中々鑑別は難しいことも事実です。

(つづく)

まあるい広場にて

丸山さんの個展

平成27年3月3日から17日まで、千葉市若葉区にある社会福祉法人九十九会まあるい広場に併設する「ギャラリーcue9」にて、いすみ学園を代表する芸術家、丸山陽さんの個展を開催致しました。今回はオフアアを受け形で、初めての他ギャラリーでの展示となりましたが、沢山の来訪者があり、大成功のうちに終える事が出来ました。

丸山さんの作品は抽象的な表現が特徴で、大胆な色彩と力強いタッチに引きつけられますが、構図や描写からは繊細さもうかがえます。更に、豊かな感性を持つ迫力が、見る人に感動を与えてくれます。現在も風川美術館のアトリエにて師事する小滝正道氏に指導を仰ぎ、日々作品製作をしています。

今回はその中でも、入選作品を中心に新旧の作品22点を展示し、丸山さんの絵の変遷を見ることが出来る貴重な個展となりました。

最後となりますが、今回貴重な機会を頂いた、まあるい広場施設長高本涼子様を始め職員の皆様の御協力に感謝致します。今後も、芸術を通じた様々な交流の和が広がればと思っております。

(支援員 片岡 彰則)



いすみ市と福祉避難所 設置協定に調印

二十七年一月二十七日、いすみ市と市内の五福祉施設で調印。福祉避難所とは、災害発生時に一般の避難所では生活が困難な要介護者とその家族を受け入れる避難所で、いすみ学園も地域の一員として協力していくこととしている。

協定締結施設

- 指定障害者支援施設 いすみ学園
- 特別養護老人ホーム いすみ苑
- 特別養護老人ホーム 愛恵苑
- 特別養護老人ホーム シルバーガーデン
- 特別養護老人ホーム 茶ノ木台くらぶ
- これまで指定の施設（一箇所）
千葉県立夷隅特別支援学校



各作業班の目標

加工班



明るい笑顔とチームワークで、こだわりの一品を全国に届けます。

生活班



いつでも居室がきれいになっているように、掃除をしています。

室内班



みんなが、伸び伸びと活動できる一年にしたいです。元気に頑張りましょう!!

3-B班



笑顔で元気に体を動かして、万木城と農道をきれいにします。

3-A班



おいしい野菜をみんなに食べてもらうぞ!!

石けん班



元気で、明るく、楽しく、精一杯仕事を頑張ります。

万木工舎



4月に新メンバー2人(利用者1名・職員1名)が加わり、パワーアップした万木工舎班です。どうぞよろしく!!

G 実習勝浦班



個性豊かな面々が揃う勝浦班！
新年度も張り切って行きましょう!!

G 実習大原班



新年度も、おいしい鮭を協力して作っていきましょう!!

さ ざ な み

感謝録

いすみ学園後援会 会員の御寄付

平成二十六年四月から平成二十七年三月までの間に御寄付を賜りました「後援会会員」の皆様の芳名を記載させて頂きます。有難うございました。紙面の都合上、敬称は略させて頂きま

す。
井沢良子・五十嵐正一・石井千賀子・菊地一雄・小川清敏・関正明・田中三枝子・片岡健太郎・銅谷勝子・西山光江・原井利明・芳賀勝子・原井恵二・河田昌代・坂本和也・西潟美溪・町山久子・土田修二・末清節子・五十嵐敏子・高田芳允・竹谷虎雄・三浦圭子・木下美恵・小田嶋勉・稲葉伸子・飯田香・梅岡広子・浅野優子・江幡誠・斉藤晴夫・由井澤・大塚克行・久保喜平・渡部勇・斉藤嘉津代・会田操・赤繁昌子・赤嶺淳一・泉富夫・泉洋子・大石坦・勝俣洋子・北本三千代・志水嘉明・中村好秀・木造育代・小沢育圃・吉田みつ子・喜屋武隆一郎・中川美津江・市川洋子・落合邦行・牧千代子・三室玲子・落合直美・常本一典・常本久美子・佐々木辰雄・寺本キヨ・斉藤日出子・中津ヒロ子・晴津久代・井口ユキエ・小倉孟・川田

郁子・北方政実・土方満喜子・淀野員代・高橋正江・会田哲也・会田正・植木俊二・竹田和弘・柏原一英・森田実・武藤誠・会田洋・植木茂・藤田久江・藤田あど・大島幸一・服部昭雄・服部富美子・赤間嘉幸・飯塚英人・内山巨・矢吹昭久・山岸弘子・北條忠男・名塚義英・岩崎陽子・岩崎アイ・中谷利勇・中谷利一・甘粕隆・飯島せつ子・若月ヒロ子・川端佐知子・相田捷二・石黒雄幸・塚本ツネヨ・遠藤進・本名猛・森和子・森孝子・中野光夫・湯上宏子・花光智恵美・花光英和・高垣千代・森勝・中西鎮雄・亀山紀子・相沢雅代・伊藤明男・上村悦子・大谷光弘・甲斐友美・桐生敏幸・中西美子・中西且子・坊垣勝彦・横井葉子・山本和弘・鈴木翠・芳賀竹志・水戸部章・栗山尚久・辻祐樹・中西宏仁・高橋昌也・中野達夫・小滝勇太郎・伊藤幸雄・山内千晶・関口達重・高橋茂子・関口いせ・千葉ヨシ・愛川義雄・内山浩・小俣光弘・瀬田武久・辻和洋・筒井昭子・山樹文子・斉藤恵子・高橋マリ・橋爪俊子・斉藤澄子・麻生実・小高成子・川野和永・菊米與工門・菊米豊・石井莊司・長田重孝・長田早苗・黒川信行・中村達・杉山恵子・星田健二・榎下順子・福本聡・村田宏・村田あつ子・愛川久子・三室美千子・尾科弘臣・幸村幸代・中村文子・池田博樹・守随良子・清水美保子・岩瀬文江・伊藤信一郎・小峯賢・吉野いせ・土洩るり子・土洩精一・小

泉真理子・栗原小絵子・生方里江子・細谷雅子・細谷幸子・日柄幸子・細谷友男・朝倉幸子・石田節子・誼高良子・田中一・佐々木幸雄・戸沢康弘・宿沢修・若林道子・山口達夫・矢沢千里・本田真知子・永江加代子・清水潤二・桐沢里津子・斧輝代・小野英子・木村奈津江・松戸裕子・川名教子・原口まり子・若林謙・大森もと子・沼志賀子・清水啓子・清水弘・清水千代子・高梨寿美枝・清水裕・松浦篤枝・能勢恭子・川本雅巳・清水信之・沢井一郎・斉藤誠司・猿渡まり子・原田博司・星野参郎・高梨悟・小林富次郎・松田美津子・嶋倉是博・永田豊・永田瞭子・後藤健一・後藤洋子・木野慶治・清水祐一・甘利紀子・池田恒春・金原市郎・鈴木たま子・後藤明子・平松金三・河西祐男・益田英則・益田美代子・早川恵子・益田和也・今井頭・今堀亨子・青木豊・岡田伍佐久・赤坂徳子・赤坂和子・浅海正興・江尻尚樹・江尻恭仁子・江尻全棧・吉沢恵美子・中村敬・中村ヤエ子・姫野保雄・近藤和義・上野梢・上野聖子・岩本菊子・林慎子・米丸啓子・米丸孝・石渡紀久・種市広・本田光・島山護・津倉正子・阪本悦子・木村豊二・石川隆三・木村敏一郎・石川秀男・石川茂・辻村邦康・佐藤剛・白川均・白川康子・和座勝朗・和座敬子・辻村純子・山科敏夫・西田文則・長谷欣之・宮田茂・大船哲夫・大原俊二・大原夏子・小野正夫・星芳・大原麻紀子・小泉千

寿子・西川喜代子・浅野勝伸・村野主税・権田孝・土井由起子・山之内玲子・伊藤恵子・篠原学・黒沢秀雄・月岡順子・月岡真知子・古屋大藏・古屋修・作間公子・杉本郷・木幡道子・ペマ・ギャルポ・今井和子・青山庸子・串田正悟・新藤千香子・中野正和・小山小夜子・室橋信夫・三池朝子・西沢敦子・豊村幸夫・久保田武子・北山静香・中森明子・細井好・滝島義光・原耕一・高山商店・キリスト同信会婦人会・芝崎勇二・斉藤実・須田博子



後援会にご入会を!

いすみ学園の活動を支援するために後援会が結成され、積極的な活動を行っています。皆様方のご協力をお願いいたします。
詳細は学園事務局へご照会下さい。

よろしく お願いいたします



村杉昭秀

この度、4月より支援員として働くことになりました。村杉と申します。以前も

福祉の仕事をしていましたが、新たな気持ちで頑張りたいと思っております。まだ不慣れで迷惑おかけしますが、信頼される職員になれる様に努めてまいりますので宜しくお願い致します。



瀬田ふゆみ

はじめまして。この春、京葉介護福祉専門学校を卒業し四月から支援員として

お世話になることになりました。これから皆様にご指導頂きながら、笑顔を決め、利用者とのコミュニケーションを取り一日でも早く信頼を得られるよう頑張ります。宜しくお願い致します。



毎年懸念される感染症は予測が難しいのが現状である。当学園では作業終了時や外出後等できる範囲での取り組

みを行っております。

〈実践〉

- 1、次亜塩素酸を含んだマットの設置。便や嘔吐物の処理と消毒の仕方(同じく次亜塩素酸を希釈して使用する)を徹底
 - 2、職員、利用者また保護者への協力(各洗面所に手洗い方法を設置し励行、面会時にはマスク着用、体調不良の保護者には面会を制限して頂く等)通院時利用者へマスクの着用
 - 3、地域、夷隅感染症情報等を随時職員に伝達
 - 4、職員、家族の感染の有無を把握
 - 5、インフルエンザ予防接種や高齢者対象への肺炎球菌ワクチン接種、全利用者、職員対象の胸部レントゲン撮影実施
 - 6、マイサポート活動の制限(場所や食事の選択・季節的に食中毒を引き起こす食品を避けるなど) 移動支援も同様で県内にとどめ、また公共交通機関の制限
 - 7、朝、夕の全員検温の実施
 - 8、迅速な医療機関への受診
- 地域で流行している中、H25・26と2年連続で利用者が感染症に罹患せず健康に過ごすことが出来たのは、毎日の手洗い指導が習慣化となった事、職員の感染症に対する知識向上が大きな成果になったと実感しています。今後も継続できる様、指導に努めていきたいと思います。

(看護師 鈴木 ゆかり)

グループホーム さくらの家・たんぼぼの家に スプリングクラー設置

いすみ学園がバックアップする2つのグループホーム(さくらの家・たんぼぼの家)は、現在5名づつ10名が生活しています。彼らの生活を火災等の災害から守る為の取組として定期的に避難訓練を実施しております。それに加え、設備的な対策として2月末日、両棟へのスプリングクラーの設置工事が完了しました。近年では異常気象のもたらす自然災害が多く、それらに向けた備え、対策整備が急務と言えます。今後はハード面の充実に加え、ソフト面への支援強化を図ってまいります。(GHサービス管理責任者 加茂 正和)



たんぼぼの家 さくらの家

感謝録

次の皆様方から、たくさんのお寄せを頂きました。厚く御礼申し上げますと共に、今後とも尚一層の御協力をお願い致します。(順不同 敬称略)

〈寄付金〉
・キリスト同信会茅ヶ崎集會・楨の里後援会・川崎朋子・辻和洋・斉藤嘉津代(ベルマーク)
・相沢雅代・赤嶺昌江(源氏商店・阪本芳男)

〈寄付物品〉
・(株)ピーアイエー・渡邊倭文子・JAいすみ・皆川会計事務所・(有)源氏商店・大正大学社会福祉実習指導室・濱田奈緒美・(有)田辺印刷・岩瀬ラジオ店・(有)松本設備工業・(株)新清ハイツ・宿澤修・(株)レオック・全経済関東支部・(有)高山商店・(株)新環境設計・(株)ネクスストワン・共生舎なすな薬局・千葉ノーマル・島村紙店・西村秀美・妙勝寺・北山静香・ときわぎ工舎・村上百合子・(株)秋葉商店・(株)イカフ・田村直美・それいゆ花の里・三橋義雄・TBS・ジャパンフーズ・千葉日報福祉事業団・(株)新健食

編集後記

いすみの丘は、今年も見事な桜並木と菜の花に彩られ、新年度がスタートして早一か月が経とうとしています。今年度は二名の新たな出会いがあり、活気溢れるいすみ学園になるよう期待に胸が弾みます。利用者の皆さんは、高齢虚弱化問題が表面化していますが安全・安穩な生活を送る事で沢山の笑顔が見られるよう、常に寄り添う支援をして参ります。今後とも、ご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。(生活支援員 岩瀬佳代子)

題字は 高梨 間子 さんです。